

固定遊具で育つ力と遊びの実際

塩田桃子 (大阪健康福祉短期大学)

1. 固定遊具とは

固定遊具には、ジャングルジムや登り棒、雲梯（うんてい）、すべり台、ぶらんこ、またこれらの遊具を複合した総合遊具（「複合遊具」「コンビネーション遊具」等と呼ばれる）等があり、鉄製や木製、軽くて収納しやすい、持ち運びが便利なもの、子どもが識別しやすい原色を使ったものなど、形や素材、色もさまざまなものが存在します。

保育園によっては、園庭が狭いことにより設置することができなかつたり、子どもの自由な発想で遊ぶことができるように、あえて固定遊具を置かない園も存在します。また、安全上の理由から、遊具が撤去されたり、使用を禁止される等の状況もあります。しかしながら、固定遊具は、のぼる・くぐる・ぶらさがる・すべる・とぶなど、基本的な動作を遊びの中で獲得することができ、さらに、回る・逆さになる・バランスをとる等のさまざまな運動感覚（回転感覚・逆さ感覚・バランス感覚等）を身につけることができます。これらの力は、器械運動の土台となるものであり、乳幼児期の重要な運動課題と言えるでしょう。自ら安全に積極的に関わり、固定遊具をわがものにする子どもに育てたいものです。

2. ジャングルジム

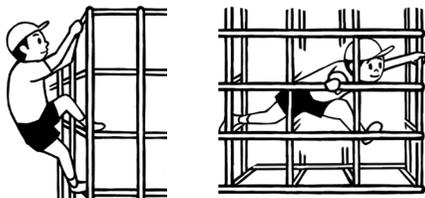
〈教材について〉

ジャングルジムは、登ったり、くぐったり、ぶら下がったりしてあそぶ固定遊具の代表的な遊具です。さまざまな運動感覚（逆さ感覚・回転感覚・腕支持感覚・バランス感覚など）や空間認識等を育てることができることから、マット運動や鉄棒運動、跳び箱運動の土台となる力をつけることができ、乳幼児期からぜひとも親しみを持たせたい遊具の一つです。子どもたちが積極的に働きかけ自由自在に身体をコントロールできるよう、さまざまな遊びを広げてほしいものです。

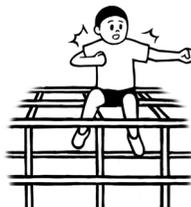
〈あそびの内容〉

(1) 動物のまねっこあそび

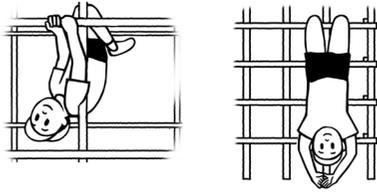
①おさる登り・横渡り



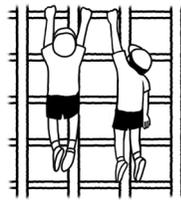
②ゴリラのドラミング



③なまけもののお昼寝



④チンパンジーのぶら下がり・片手ぶら下がり

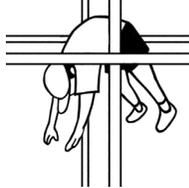


(2) 技の発明ごっこ

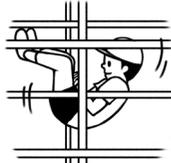
①足はなし



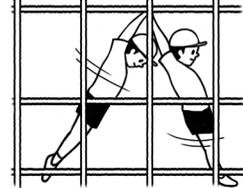
②布団ほし



③クルリンパ



④人間ブランコ



(3) ジャンケン登り・ジャングル鬼ごっこ

①ジャンケン登り：ジャンケンをして勝ったら1段ずつ登ることが出来ます。一番上まで登ったら、次は一番下まで降りていき、先に下まで降りた人が勝ちとなります。何人でも遊べます。

②ジャングル鬼ごっこ：ジャングルジムをつかったおにごっこです。鬼にタッチをされる、または、地面に足が着いたら鬼になるなどのルールを、子どもたちが考え創り変えていくことでおもしろさが膨らんでいくことでしょう。



(4) 「10びきのかえる」ごっこ

10びきのかえる（子ども）のうち、1びきが重い病気にかかり、ぎろろんやま（ジャングルジム）の頂上にあるキノコが病気に効くときいてかえるたちは頂上を目指します。しかし、そこにはこわ〜いこうもりさん（保育者）がいます。かえるたちがキノコを採ろうとするとこうもりさんが邪魔（タッチ）をしにきます。見事にキノコを採ることができるとかえるたちは大喜びします。ぎろろんやまには、こうもりだけでなく、怖い動物がたくさんいます。動物を変えたり、こうもり役を子どもたちがする等して、遊びを発展させていくことでさらに面白さが膨らんでいくことでしょう。



3. ぶらんこ

〈教材について〉

ぶらんこは、身体を振ってぶらんこに揺れを起こし、フワッと身体が浮くような感覚や、振りを大きくしていくと高さやスピードによるスリル感を味わうことができる魅力あふれる遊具です。ぶらんこの鎖をしっかりと握り、バランスをとりながら重心を移動させ、調子よくリズムとタイミン

グをとり身体をうまくコントロールする力が要求されます。マット運動や鉄棒運動等では、このような重心移動を中心とする力が重要な要素となります。

〈あそびの内容〉

(1) いろいろな乗り方

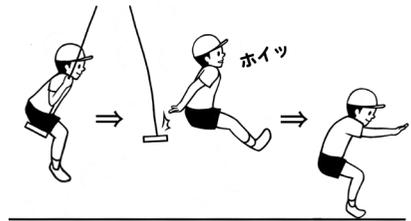
- ①座りこぎ ②おなかこぎ ③立ちこぎ ④2人乗り



(2) さよならあんころもち (楽しみながら交代する遊び)

「♪さよならあんころもちまたきなこホイッ」と歌いながら「ホイッ」で跳び下り、次の人と交代します。

着地の目安となるように円を描いたり、着地のポーズを考えたりして発展することができます。



(3) くつ飛ばし

ぶらんこに乗りながらくつを遠くに飛ばす競争をします。

また、目標となる的を置いたり、円を描いて、そこに飛ばして入れるなどして発展させることもできます。



4. すべり台

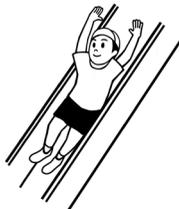
〈教材について〉

すべり台は、登ったりすべったりする中で、手足の協応やスピード感覚、バランス感覚などを身につけ、登る、座る、すべるなどの基礎的な動作を獲得することができます。また、すべり台の形状や滑り方の工夫によって、面白さが変わるのであそびをどんどん発展させることができます。高いところへ登りたいという欲求を満たし、登ったときの達成感を味わうことができ、さらに高さやスピードなどのスリル感を味わうことができるので、子どもにとってもはたとても魅力的な遊具といえます。複数ですべることができるので友だと一緒にすべって楽しむことができますが、順番や使い方のルールなど、安全に遊ぶ方法を考えさせることも大切でしょう。

〈あそびの内容〉

(1) すべり技の発明ごっこ・列車

- ①足グーすべり ②足パーすべり ③スーパーマン1 ④スーパーマン2 ⑤列車



(2) 動物のまねっこあそび

①とかげ歩き



②くまさん歩き



④あひる歩き



(3) 忍者修行 (ロープを使って登る)



5. 登り棒

〈教材について〉

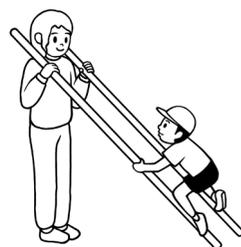
登り棒は、登ったり滑り降りたりする中で、バランス感覚や手と足をうまく協応させる力を育むことができる遊具です。両腕で身体をグッと引き上げ、足の裏（もしくは甲）をうまく使って棒をはさみながら力を込め、手と足をうまく協応させる力が要求されます。腕で身体を支える感覚やバランス感覚はマット運動や鉄棒運動において重要な要素となります。指導する際は、登る高さを要求するのではなく、子どもが自ら登ることを楽しめるように取り組むことを大切にしましょう。

〈あそびの内容〉

(1) 忍者修行

①ななめ竹登り・跳び下りの術

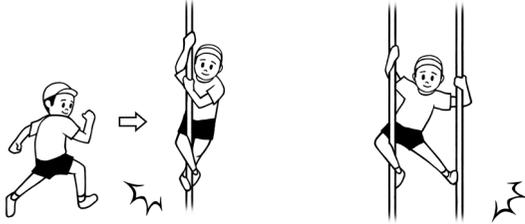
保育者が2本の竹を肩に背負い、子どもが地面から先生に向かって登っていきます。大好きな先生を目指し、登れたらハイタッチ。また、2本の竹を跳び箱や鉄棒等に固定し、てっぺんに巻物や手裏剣等の目標となるものを置いたり、音をたてないようにそっと着地する跳び下り忍法、オリジナリティーあふれる着地ポーズを考えるなど、遊びを広げていくことができます。



②跳び乗りの術・クルリンパの術

1本もしくは2本の登り棒を使って、ジャンプして跳び乗ります。手で握り足を絡ませてしがみつ়く術、手だけでぶら下がる術、手と足の裏で挟んでしがみつ়く術など、登り棒に手足を使ってつかまることを楽しめるようにします。また、2本の棒を使って、クルリンパの術など、あそび技を發明していき發展させることもできます。

①走って→1本に飛び乗りの術 2本に飛び乗りの術

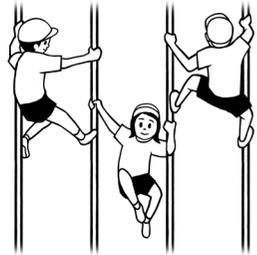


②クルリンパツ



③棒渡りの術

2本以上の登り棒を使って、棒から棒へ渡っていきます。手を先に握って渡ったり、足から渡ったりするなど、渡り方を考え楽しみながら取り組めるようにすることが大切です。また、棒に手裏剣を貼っておいて、手裏剣集めをするなどして遊びを膨ませることもできます。



6. 雲梯 (うんてい)

〈教材について〉

うんていは、ぶら下がったり、うんていの上を手や足をうまく使って渡ったりするなどの遊びが挙げられます。また、ぶら下がった状態から、体幹を中心とした筋肉を使って身体を振り（あふり）、振り子の原理をうまく利用して、タイミングよく前に移動しながら棒を渡っていく技は、鉄棒運動やマット運動に発展する感覚が含まれており十分に経験させたいものです。

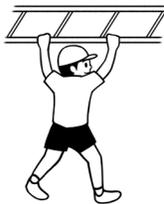
〈あそびの内容〉

(1) 動物のまねっこあそび

①サルの前渡り・後ろ渡り



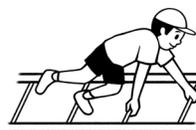
②かにの横渡り



③こうもり



④くまの橋渡り

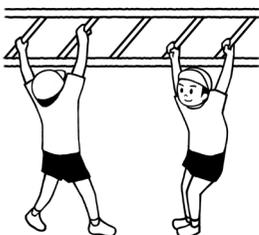


⑤かめ

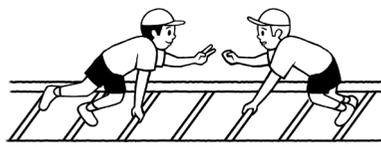


(2) じゃんけんあそび・足相撲

①足じゃんけん：うんていの両側から前移りで進み両者が会ったところで、足でじゃんけんする。



②手じゃんけん：うんていの両側から前移りで進み、両者が会ったところで、手でジャンケンする。



③足相撲：うんていの両側から前移りで進み、両者が会ったところで、足で相手を落とす。

